



寮監だより

令和7年7月25日

(公財) やまがた育英会

駒込学生会館 板橋学生会館

寮生保護者 各位

(CC:卒寮生、評議員、監事、理事各位)

失敗なんてない

入学式から4か月ほど経つと新入寮生もだいぶ落ち着きが出てきました。新たなゼミへの挑戦やサークル活動に打ち込む姿など1年生だけでなく2～3年生も活動範囲が格段に広がっているようです。スキューバダイビングの資格を取ったり、トライアスロン部に所属し、寮から練習先の埼玉まで自転車で出かけたりする学生もいます。そんな中でこの6月から再スタートした「山形育英塾」も軌道に乗り出しました。駒込学生会館がある北区中里地区の小中高生を対象に寮生が指導する学習塾で、料金の安さと寮生のまじめな人間性が保護者の信頼を得、受講生からも懇切丁寧な教え方が好評です。講師のローテーションや受講料の集金なども自分たちで知恵を絞り実施しています。

先日、他寮の管理者から「指示しないと動かない」という話を聞きました。指示待ちに悪気はなく「指示されていないことを自分からやって、失敗したり怒られたりしたくない」というのが理由のようでした。やまがた育英会でも在寮生134人の中には主体的に動くことが身につけている学生とそうでない人の差を感じる時があります。刑法に触れるようなことは論外ですが、そもそも学生の経験に失敗などないと思っています。そしてそれらは成長のための経験となるはずです。

前期試験が終われば、楽しい夏休みが待っています。私は大学1年生の夏に「奥の細道」をなぞって山形まで歩いて帰る旅をしました。残念ながら松島で断念しましたが、この経験は人生の宝物です。寮生みなさんがこの夏休みに色々なことに挑戦し、それが一生語れる、また思い出に残るいい体験ができることを願っています。



▲上) 寮生の講師陣 下) 講習風景

活躍する給水機

東京の昨年夏の平均気温は35℃を超えているというニュースがありました。山形の夏も暑いですが、まだ朝晩涼しいのは救われます。ところが東京は気温25℃を下回らない熱帯夜が連日続き、もう温帯ではなく亜熱帯という感じです。

熱中症予防には、冷房設備の上手な活用が欠かせません。駒込学生会館では3月に男子棟3



▲駒込寮食堂の給水機

階、6月には1階・2階各部屋のエアコンを一齐交換したところです。また、こまめな水分補給も大切です。市販品のペットボトルの水を買えば1本100円はします。しかもこうした暑さでは1本では間に合いません。そこで活躍するのが食堂にあるウォーターサーバーです。全国チェーンの飲食店でも活躍している業務用のもので常時5℃前後の冷たい水が供給されます。カルキや不純物を取り除くフィルターも定期的に交換していますので美味しさは保証付き。寮生はそれを各自の水筒に詰めて学校に出かけていきます。これで毎日数百円の節約に。これが図書購入や自己実現の足しになっているとすれば嬉しいのですが・・・

「やまがた育英会」美術品シリーズ⑤

駒込学生会館、板橋学生会館には多くの絵画や美術品が飾られています。それをシリーズで紹介しています



駒込学生会館 1階会議室前の洋画

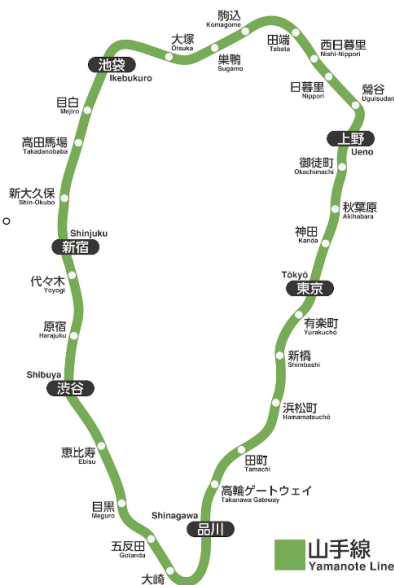
夏の最上川

- ◇作者 真下 慶治 (1914～1993 年)
- ◇作品 大石田黒滝付近 1982 年制作
- ◇大きさ 20 号

- ◇寄贈者 真下 清美 氏
- ◇額装寄付 本間 俊三 氏

46 kmを歩き切りました ～第14回 山手線徒歩一周～

「さあ、元気に行くぞ！」リーダーの掛け声で名物行事のスタートです。少し前の話になりますが、4月26日、(公財)やまがた育英会の一大イベント「山手線徒歩一周」が行われました。2010年に駒込学生会館の有志数名で敢行したのが始まりで、今年で14回を数えます。山手線の路線距離は34.5 km、駅数は30あります。歩き方やたどるコースにもよりますが、外周を歩いた場合はフルマラソンと同じ42 kmほどになります。





▲元気に駒込寮を出発

【ドキュメント 山手線徒歩一周】

7:30 駒込学生会館スタート。

板橋寮からも1年生を中心に10名ほどの参加があり、総勢30数名で出発しました。リーダーは前男子寮長、サブリーダーは前女子寮長と決まっており、それに現男女寮長がサポート役で手伝います。

7:50 振り出しとなる駒込駅到着。

そこから上野→東京→品川→渋谷→新宿→池袋と外回り（路線図で見ると右回り）で歩いていきます。

8:45 田端、西日暮里、日暮里、鶯谷を経て上野駅に到着。

「山手線徒歩一周 挑戦中」の横断幕を掲げて記念写真を撮影していると、「俺たちも昔歩いたよ」「電車に乗るズルできないように真夜中だったけど」という80歳前後の元気老人グループから励まされました。



▲板橋寮の精鋭たち（御徒町）

10:15 東京駅に到着。

アメ横から御徒町、秋葉原でアニメオタクたちが列をなす店舗を横目に神田を過ぎ、途中で抜ける人、合流する人ありで総勢50名に膨らみました。東京駅では駅舎をバックに記念写真を撮る外国人たちからの視線を浴びながらこちらも記念撮影。みんなとてもいい表情です。



▲辰野金吾が設計した東京駅舎前で

12:10 新橋、有楽町を過ぎモノレールと接続する浜松町、芝増上寺の大門を越えて田町駅に到着。

ここで昼食のため1時間の大休止。1~4年生を混合した6つの班に分かれて昼食です。初めての場所でもスマホアプリで美味しい店を見つけて即予約するのはさすが上級生。1・2年生に3・4年生がご馳走するのも伝統となっているようで「この日のためにバイトしてきた」という4年生もいました。



▲途中で栄養補給（新橋）



▲さすがに疲れが見え始める（五反田）



▲山田事務長が栄養ゼリーを差入れ

15:10 お洒落な駅舎と駅前の高輪ゲートウェイ駅で小休止の後、五反田駅到着。

「行程の半分強を過ぎたところ」と聞いて顔が曇る新入寮生もいましたが、休憩場所の五反田ふれあい水辺広場で山田事務長が冷たい栄養ゼリーを差し入れてくれ



▲時ならぬ雨にこんな光景も

ました。そのおかげで元気を取り戻し、夜の新宿に向かって歩を進めていくことができました。

18:40 **新宿駅到着。**

恵比寿駅周辺でしゅう雨に見舞われましたが、先輩寮生がコンビニで傘を買い後輩に与える美しい光景も見られました。程なくして雨も上がり、渋谷へ。次の原宿では名高い竹下通りで写真を撮り、国立競技場が見える代々木を過ぎて新宿に。ジャンケンで班分けし、班ごとの夕食となりました。エネルギーを補給し、さあラストスパートです。

▲神田を過ぎて大手町付近

22:37 夕食の後、新宿駅に戻らず一つ先の新大久保駅前に集合し、学生でにぎわう高田馬場、閑静な目白を過ぎて**池袋駅前**。「あとは大塚と巣鴨を通れば駒込だね」と声を掛け合っ

て疲労がたまってきた体と足を元気づけていました。

23:47 いよいよ**駒込駅**に。

このイベントでは、記憶と記録に残すためにリーダーが白Tシャツを着て、目的駅に到着するたびに駅名を寮生がそのシャツに書き込みます。掉尾を飾る駒込駅では来年度のリーダーとなる高橋悠哉寮長（駒大3年）が加賀悠希前寮長（日大4年）の胸のあたりに「駒込」と大書。リーダーの労をねぎらうとともに来年への決意を固めていました。



▲加賀リーダーのシャツに（駒込）

23:59 **駒込学生会館到着！！パチパチパチ**

「何とか今日中にゴールしたい」という目標を達成しました。故障者やけが人もなくみんなで助け合い、和気あいあいとゴールできた喜びはひとしおのようです。最後の庄内坂はだらだらの上りでこたえましたが、寮前には出迎え隊が「おかえり」の横断幕とクラッカーで無事の帰還を祝福してくれました。

かつて奥の細道を松島まで歩いた寮監も全行程参加しましたが、アプリでの歩数は6万5千歩、歩行距離46kmでした。



▲お帰り隊の出迎えを受け無事ゴール

追記 途中の雨と疲れ、ゴール後の深夜まで時を忘れる反省会もあったせいか、27日、28日と熱を出したり、体調不良を訴えたりする学生が続出。1日ほどで全員無事回復したので安堵しました。ただ、イベント自体の継続を心配して「来年はどうする？」とその寮生たちに質問したと



ころ、「もちろん参加です！」とうれしい答えが返ってきました。

【インタビュー】



リーダー 加賀悠希君（日大4年・日大山形卒）

大人数で歩くので「危険なく、そして楽しく」を心がけ2週間前から準備をし、スマホの地図アプリでコースを確認しながら延べ3日かけてコースを下見で歩きました。

普段あまり話をしたことのない寮生同士の交流の場になり、寮生の意外な一面に触れることができたのも収穫です。「リーダー役は自分にできるだろうか」と不安でしたが、いろんな人に助けられ、下級生からの感謝の言葉にも救われました。

徒歩一周スナップショット



芝蘭結契

～寮生の活躍にみんなで拍手～

「芝蘭結契（しらんけっかい）」とは、よい感化をもたらす才能・人徳に優れた人との付き合いのこととある書物で知りました。

（公財）やまがた育英会学生寮には個性にあふれ、また様々な才能を持った学生が集っています。例えば本間光さん（上智大3年・山形東卒）は東京大学フォイヤーヴェルク交響楽団の定期演奏会でコンサートマスターを務め、押野健太郎君（立教大1年・山形南卒）は7

月 11 日の東日本学生レスリング選手権大会新人戦で見事 2 位となりました。また宮田和斗君（東京理科大 3 年・興譲館卒）は鳥人間コンテストに挑戦し続けています。

スポーツに限らず音楽や絵画、文芸などの芸術文化、各種コンテスト、サークル活動などでの寮生の活躍を紹介し、みんなで称えあいたいと考えています。それが、寮生の気づきや励みにもなるからとの思いです。

まだ原石ですが、これから著名な詩歌の賞を受賞することになるかもしれない羽鳥結人君（明治大学文学部 1 年・興譲館卒）の詩「遥かなる街、遥かなる風」を紹介します。

遥かなる街 遥かなる風

羽鳥結人

荒い雲が空を駆けてゆく 深い陰が都を浸していく
この都は輪郭が濃い その隙間に潜むものが在る
人はその中を泳いでいく もがき、もがいて
泳いでいくのです
何かを視ているようで 何処か遠くに馳せた眼で
息を痛いほどに吸って、吐くことも忘れて
泳いでいくのです
したゆたう風に 昨日を浮かべて
あの蒼い山々を 遠く越える鳥を見ていた
鮮やかに生える水面の苗は 風を起こし
黙々と歌う蛙達を包む
その苗が淡く実る頃 その地に太陽の絨毯を紡ぐ
その命が まぶしくて、まぶしくて
この目の淵まで 静かに沁みてゆく
やがて木々は身を締め、白い綿を纏っていく
仄かに残る渴きを憂い 優しい孤独に沈んだ後
いずれ微かな息吹が 聞こえてくる

時は過ぎ行き 人は廻り続ける
変わり、変わらぬものが そこに在るということ
それは 皆、知らないもの ただ、私は
いつも歩いたその街で 胸いっぱい息を吸い、胸いっぱい息を吐く
したゆたう風に 明日を浮かべて
遠い 遠い空 熱を帯び、翳を灯す雲
この眼 この足 この肌は 少し忘れてしまった
引いては 揺れる この機微は確かなものを求めている
この地 この空 この風は 遥かなる地に続くもの
心は傷つきながら 哀れに慰めを欲し続ける
けれど、けれどいつかあの街に 人がたどり着く為に
遥かなる街に還る為に
時も 場も 何もわからぬあの風は
絶えず 満たしてゆく
絶えず 満たしてゆく

遥かなる風

（公財）やまがた育英会

寮 監 石井 隆

ご感想・ご意見をお待ちしています

t-ishii@yamagata-ikueikai.or.jp